

稲作情報



NO. 10

中部地区営農センター
電話番号(0258)42-4133

今年も高温年！！刈遅れに注意！！

平成30年 8月15日

7月下旬から高温気象が続き、早生品種の出穂期以降(7/20~31)の平均気温が34.7℃と胴割粒の発生リスクが非常に高まる33℃を大きく超え、立毛中の胴割れから収穫遅れ・過乾燥による胴割粒の多発生が非常に懸念されます。

今後も気温が高く降水量が少ない気象予報となっていることから、胴割粒や白未熟粒の発生・拡大を少しでも軽減する為、以下の対策を徹底して品質向上を図りましょう！

1. 適正な水管理

可能な限り飽水管理を継続して1等米に仕上げよう！

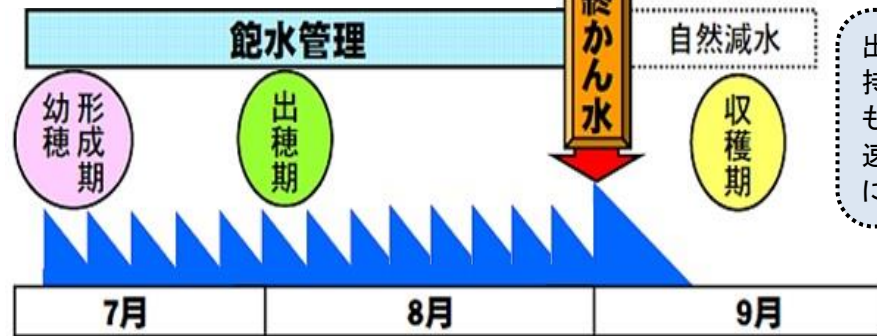


高温時における湛水は、フェーンなどの一時的な対処法として用いられますが、常時(24時間以上の)タメ水は、稲体や根の活力低下を招きます。また、夜間の高水温によって稲体を消耗させ、養分転流(登熟)を阻害します。さらに、根の活力低下→養水分の吸収能力低下の要因となり、登熟に大きな悪影響を及ぼします。(タメ水期間は長くとも1日(24時間)以内となるよう心掛けて下さい。)

また、早期落水は籾水分の過度の低下による胴割粒の発生につながります。可能な限り登熟後期(収穫間際)まで飽水管理を継続しましょう。

出穂後25日以降を目安に！
あわせて暗渠栓の開放を可能な限り遅くする

【コシヒカリの水管理のイメージ】



出来る限り遅くまで土壌水分を維持することで、登熟を促進するとともに、高温が予想される場合は、速やかにかん水し、土壌乾燥防止に努めてください！



2. 適期収穫

葉や茎の色ではなく、籾の色で刈取適期を判断しよう！

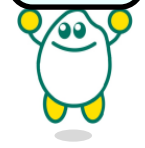


積算温度に基づく刈取適期予想【右表】を参考に計画的に刈取準備を行って下さい。今後も高温気象が続く予想となっていることから、収穫適期が2日程度早まる見込みです。早めには場全体の籾を観察し、黄化籾割合が85~90%程度になった時期に収穫を行って下さい。

また、刈取適期を迎えてから日を追って胴割粒率が増加します。適期を迎えてから遅くとも5日以内に刈り取れるよう作業計画を策定し、乾燥機の能力に限界がある場合は、コントリーやライスセンターの利用を検討して下さい。

- ✗ 早刈り → 未熟粒の混入増加、収量低下
- ✗ 刈遅れ → 胴割米・着色米の増加(高温年: 基部未熟粒の増加)、倒伏助長

刈取適期うちわを活用して、遅れずに収穫を行いましょう！



◆ 実際の“収穫適期の判断” ◆

収穫適期は、黄化籾割合が85~90%程度になった頃(上位3~4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗が黄化した頃)です。

※ 栽培条件等により、ほ場ごとに収穫適期が前後します。

“刈取適期うちわ”を活用して、ほ場ごとの収穫適期を判断しよう！



刈取適期うちわ



3. 適正な乾燥・調製

- ◇ 収穫後は籾を速やかに乾燥機に搬入・通風し、ヤケ米を防止しましょう。
- ◇ 毎時乾減水分は0.5~0.6%としましょう。0.8%を超えると、胴割米の発生率が高くなります。→ 成熟期~収穫期の高温等により、立毛胴割れが予想される場合は、毎時乾燥速度が0.5%以下になるよう送風温度を低く設定するとともに、過乾燥には十分に注意してください。特に早生品種では登熟期前半が高温となったことから注意が必要です！
- ◇ **仕上げ水分は14.5~15.0%**に仕上げましょう。→ 過乾燥は胴割れ・食味低下、仕上げ水分15.0%以上は、玄米水分の戻りによるカビ米の発生原因となります。

4. 刈取適期予想(中部地区)

品種名	出穂期(予想)	刈取適期(予想)	積算温度の目安
五百万石	7月20日~7月24日	8月23日~8月27日	925℃ (高温年の為-50℃)
わたぼうし	7月20日~7月24日	8月25日~8月30日	
ゆきん子舞	7月22日~7月26日	8月27日~9月1日	
こしいぶき	7月24日~7月28日	8月30日~9月3日	
ゆきの精	7月24日~7月28日	8月30日~9月3日	
ゆきみのり	7月18日~7月22日	8月24日~8月28日	950℃ (高温年の為-50℃)
こがねもち	7月26日~7月30日	9月2日~9月7日	
コシヒカリ	7月30日~8月3日	9月7日~9月13日	
越淡麗	8月6日~8月10日	9月17日~9月22日	1,000~1,050℃
新之助	8月9日~8月13日	9月22日~9月29日	1,050~1,100℃
あきだわら	8月9日~8月14日	9月24日~10月2日	1,100~1,200℃

※ 刈取適期(予想): 長岡アメダスデータの積算気温で算出

※ あくまでもめやすです。ほ場ごとの出穂期や今後の天候等により前後します。刈取適期(予想)を参考に、必ずほ場ごとに実際の黄化籾割合を確認し、収穫適期を判断して下さい。

~~営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ~~
次回稲作情報: 9月上旬頃「稲わら秋すき込み、土づくり」(予定)